

千綿駅 ▶ ミドリブ

Chiwata

千綿駅内



ホームの目の前には大村湾！列車を待つ時間も楽しい。



大村湾沿いの駅舎の中で、最も人気があるのが東彼杵町にある千綿駅。レトロな佇まいと、ホームの目の前に広がる大村湾の風景は鉄道ファンのみならず、多くの人を魅了している。

切符売り場にオープンしているのは、オーガナー制の小さな花屋。店は三人の女性が部活を楽しむように始めたことから「ミドリブ」と名付けられている。

この日店に立っていた飯塚陽子さんは千葉県出身で、十年ほど前から東彼杵町で暮らしているという。「千綿駅は私も大好きな駅舎なので、ここでお店をできて嬉し

く思っています。写真を撮るために訪れる方も多く、想像以上に幅広い年齢層の方がいらっしやいますね」。

話を伺っている途中、一人の女性が店の中を覗き込んだ。気付いた飯塚さんは「川棚までですか？二百八十円です。今日はお天気がいいですね。行つてらっしゃい」と切符を販売し始めた。驚いてみると、「駅舎を借りる条件が切符の販売をすることなんです」とのこと。「切符を売るなんて初めてなので最初は緊張しましたが、みなさん優しくて。私がかたもたしていても、待つてくださるんです

よ。今は切符の販売も楽しいですね」。

ミドリブでは、かつて千綿で紡績が行われていたことになみ、オーガニックコットンの栽培にも取り組んでいる。オーガニックコットンの栽培担当や花の仕入れ担当など、三人はそれぞれ役割を分担しているという。共通点は花が好きで、U・I・ターナー者であること。三人寄れば会話が弾み、いつも楽しい。「でも私たちは性格も、やりたいことも異なるため、無理矢理一つの方向に向かっていくとすると、微妙な誤差が生ま

れてしまいます。だから、それぞれがやりたいことをやっていければいいじゃない、といったスタンスで仕事をしているんです。みんな、わがままですから」。そう言って笑う飯塚さんに、三人のチーム力が表れている。

店頭では列車から降りた人がふらりと寄って気軽に買っていきけるように、可愛いドライフラワーを販売している。小さな駅舎の中に並べられた小さな花束に心が温かくなった。



レトロな駅舎にある
小さなお花屋さん



列車でぶらり 自然と歴史めぐり 千綿駅～ミドリブ

